



## 脱水症について

記録的な猛暑となった今年の夏、脱水症になる人が多く出たようですが、はたしてこれは夏だけの症状なのでしょうか？暑さのほかに、発熱や下痢などによっても引き起こされることがあります。脱水症とは単に水分がなくなった状態だけでなく、水分に加え塩分などの電解質が減少した状態をいいます。原因として多いのは熱中症のような状態になる時ですが、風邪・インフルエンザ・食中毒なども脱水症の原因になります。ちなみに子どもが脱水症になったことが最も多いのは「風邪をひいた時」で、起こした月は「2月」が最も多く、次いで1月、8月だそうです。意外にも乳幼児では暑さ以外の原因で脱水症になる場合が多いようです。脱水症の見分け方は、皮膚や舌の乾燥、尿の量が少ない、目がくぼむなどがあります。対処法として、水分補給に「経口補水液」が最適とされています。経口補水液とは、水分と電解質をすばやく補給できるようにナトリウムやブドウ糖の濃度を調整した飲料のことです。従来は医師の処方箋が必要だったものですが、現在では市販品としてペットボトルで販売されています。



## ペットからうつる病気(動物由来感染症)

ペットブームにともない、ペットから感染する病気が注目されています。その背景には気密化された室内で飼われ、人との濃厚な接触が増加していることが考えられています。日本国内で発生している主なものの大半は犬とネコから感染し、ハムスターやウサギなどからも感染します。接触、かみつき、ひっかきによる場合や、動物の排泄物(フンや尿)などが人の手について口に入る場合、ノミ、シラミ、蚊、ダニなどを介して感染する場合など多岐多様な感染経路があります。



特に健康な犬やネコの口の中に常にある細菌から感染する「パストレラ症」は近年増加しており、気密化された部屋では、この細菌を吸い込むことにより、人に呼吸器の病気などをひきおこす場合があります。

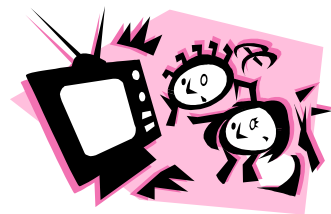
しかし、飼育環境を清潔に保ち、動物との過度な接触はせず、触った場合は手洗い、消毒をし、うがいをすれば防げる感染症がほとんどです。

## テレビについて

12月は何かと子ども向け番組が多くなり、つついテレビに「子守り役」をさせがちです。現代の生活でテレビは家族の一員のような存在でもありますが、良い点もあれば、困ることもあります。

子ども達が動物や乗り物を知ったり、画面に合わせて歌ったり踊ったりできます。

しかし、テレビとは会話ができません。一方的に情報や知識を受け入れるだけです。食事の時などテレビを見ていると家族の会話もありません。



### ～テレビの見せ方～

- ① お子さんがテレビにクギ付けになっていれば、お忙しい時など手が省けますが、時々、お子さんと一緒にテレビをご覧になって、お子さんと会話をするようにしましょう。
- ② テレビを見ながらの食事では、会話をするよう気をつけましょう。
- ③ 一度にテレビを見るのは30分程度にし、テレビ以外の遊びもさせ、散歩に出かけることも大切です。